

Interview

医療法人社団欣助会 吉祥寺病院 (東京都)

スタッフの職能を活かし、 患者・家族に寄り添った 社会復帰を目指す

東京郊外の閑静な住宅街に吉祥寺病院はある。理事長・院長の塚本氏によると「この地域は作業所やグループホームが多く、社会復帰には非常に適しています」とのことだ。創立54年となる吉祥寺病院は、長く統合失調症への対応、マンパワーの充実に力を注いできた。現在、PSW(精神保健福祉士)9名、OT(作業療法士)10名が各病棟、デイケアなどに配置されているが、PSWが対応した相談件数は、日本医療機能評価機構受審病院の平均値の20倍だと言う。長く培われてきた患者・家族へのきめ細やかなケアとは。そして社会復帰に熱心なスタッフの職能は、どう活かされているのだろうか。

●統合失調症が多く、紹介入院率が高い

当院における入院の特徴は、非常に紹介率の高いことです。入院の内訳は紹介が56%、外来からが31%、措置入院が9%です。紹介元は近隣にある大学病院4施設と、30軒以上のクリニックが中心です。逆に当院は身体合併症を診る機能を持っていません。そういう意味でも病診・病病連携は非常に重要なのです。

2002年の入院患者数は280人程度でしたが、4年で倍近い528人に増えました(平均在院日数は約200日)。患者さんはすべて紹介元へ戻っていただいていますので、連携先と信頼関係が築けた結果かと思えます。外来数は一日平均65名ほどで、大きな増減はありません。

入院は統合失調症の患者さんが圧倒的に多く82.6%で、平均年齢は55～56歳です。社会復帰に力を入れており、再入院率も

低く抑えられています。

この地区の家族会の方が「吉祥寺病院で息子がよくなった。仕事に就くことができた」と、会で言ってくれたそうです。嬉しかったですね。

理事長・院長
塚本 一 氏



●家族へのさまざまな支援

あるご家族の方から「病院はどことも患者には対応するけれど、家族のほうには向いてくれない」とお聞きしたことがありました。患者さんの社会復帰にご家族の協力は不可欠ですから、家族支援には力を入れています。

当院の家族会は1965年に立ち上げています。毎月第3土曜に講師として当院から医師や薬剤師を派遣し、「引きこもり」や「非定型抗精神病薬」などのテーマで1時間講演しています。その後1時間、ご家族でディスカッションを行っています。

5年前からは家族教室も始めました。年3回一般公開しており、統合失調症圏で当院に入院された方のご家族には、必ず案内のハガキを出しています。患者さんへの対応方法を知っていただくのが目的で、医師、薬剤師、PSWが各1時間ずつ統合失調症について話します。

また、家族心理教育「ファミリーサポート・セミナー」も5年前から始めました。6～8人のグループごとに毎月1回、計8回の講義とグループワークを行うものです。2006年の参加は20家族(20名)でしたが、翌年は34家族(44名)に増えました。ご家族からの評判はとてよく、「対処の仕方がわからず不安だったが、少しずつ理解できた」「他の家族と話ができて、気持ちがほぐれた」などの感想をいただいています。

●患者さんが運営するデイケア

社会復帰活動に関してですが、当院のデイケアは実行委員会方式をとっており、患者さんたちが運営しています。患者さんたちが実行委員として「次に何をやるか」と計画し、実施しているのです。実行力がつきますし、各自の能力を引き出すことができます。もちろんスタッフはそれを支えるため、すべてのデイケア利用者に毎週面接し、個人的な課題や達成状況の確認などを細かく見えています。



▲病院外観。2001年に日本医療機能評価機構の認定を受け、2006年に更新した。

医療法人社団欣助会 吉祥寺病院

- 住所：東京都調布市深大寺北町4-17-1
tel. 042-482-9151 fax. 042-482-8260
- 診療科目：精神科、神経科
- 病床数：345床
- 付帯施設：地域活動支援センターほか
- 開設年：1954年
- 職員数：240名(常勤医師8名、非常勤医師10名、看護職115名、PSW9名、OT10名ほか)



▲正面玄関を入ってすぐにある受付。にこやかな女性職員が常に対応している。左の通路を行くと病棟、右は外来。



◀病棟はL字型で真ん中にスタッフステーションがある。各病棟にデイルームがあり、作業療法が可能。

▶病棟内。壁に写真を配置し、明るい雰囲気。



他に作業療法、ナイトケアやSST(生活技能訓練)なども行っています。病院の外で適応できるよう、外に出て行う作業療法にも力を入れています。

●全職員が相互の力を発揮できるように

カンファレンスは多職種で行っています。ですから、PSWやOTはりハビリテーションを行う際に、その患者さんの状況をすべて把握しています。

スタッフ教育に関しては研修委員会を設置し、年間スケジュールを決めて定期的に勉強会を行っています。すべての職種が参加できる勉強会です。私も各職種と話をするとき「ああ、こういう患者さんの見方もあったのか」と、気づくことが結構あります。全職員が相互の力を発揮し、さらに高いパフォーマンスを目指せたらと思います。

●これから

この10年、薬の進歩は大きいなあと思います。生活の質も社会復帰の質も上がっていると感じています。昔は統合失調症の方は一見してわかりましたが、非定型薬の登場によって、表情やしぐさなどで判別できなくなりました。非定型薬を使いこなすことによって、今まで以上に患者さんのADL(日常生活動作)が向上したり、再発予防が可能になると思っています。

また、医師と薬だけでは限界かと思う症例でも、デイケアなどによって生活が安定し、社会復帰が可能になることは多く経験します。やはり多職種がいろいろな形で協力することによって、パフォーマンスが上がっていくことを実感しますね。

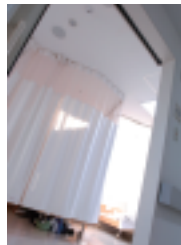
現在、精神科病院は変わってきていると思います。思春期病棟をつくったり、アルコール症や高齢者を専門にしているところもありますよね。当院は今後、「統合失調症だったら、吉祥寺病院に行けば何とかしてもらえる」と言われる病院になりたいと思っています。



◀◀外来は6診。一日平均外来数は約65名。



▲待合室に置いてある情報ラック。地域の社会復帰施設に関する資料を自由に閲覧できる。



▲4床室は頭側に窓があり、カーテンを壁に変えらるとすべて個室となる。